会議記録

附属機関の名称	熊谷市自治基本条例審議会
開催日時	平成２９年１月２５日（水）１４時００分から１６時００分まで
開催場所	熊谷市立商工会館　２階１号室
出席者	【委員】計６名 山口雅功会長、依田悦代副会長、出浦尚明委員 小谷野操男委員、上村悦子委員、安藤君子委員 【事務局】企画課職員計３名 持田課長、野村主査、松本主事 計９名
傍聴人	０人
問い合わせ先（所管課）	総合政策部企画課（市役所本庁舎３階） 電話　０４８－５２４－１１１１（内線２２８）
内容	**１　開　会** ⑴　熊谷市附属機関の会議の公開に関する要綱に基づき、会議の概要を公開することの承認 ⑵　会議資料の確認 **２　会長あいさつ** **３　議事** 熊谷市自治基本条例審議会条例第６条第１項の規定に基づき、山口会長が議長となり進行 **(1)　自治基本条例の推進状況について** （資料：自治基本条例推進状況検討資料） 事務局から資料について説明 ①　市民生活の現状および満足度についてのアンケート調査報告書について （委員）「リーディングプロジェクト」という言葉がわかりにくい。もう少しわかりやすい言葉はないか。一般の人にもわかるような文言にしてほしい。 （事務局）市民の方にわかりやすく伝えるということは、自治基本条例にも明記されているので、次期総合振興計画を策定するうえで、参考にさせていただきたい。 （委員）熊谷市の地域別の人口状況等、基本的な部分を委員が把握したう

	えで議論をしたほうがいいと思う。 （事務局）現在の市の基本的な状況を委員のみなさんに理解していただく必要があると思うので、次回から地域別の人口状況の資料を用意したい。市の人口の状況としては、人口を増やすため様々な取組を行ってはいるが、全体的には微減となっている。その中でも特に交通が不便な地域は人口減少率が高い傾向があるので、市内循環バスのルート変更等、検討を進めていきたいと考えている。 ②　成果指標について （委員）１０年という期間を考えると、今の指標を用いて評価をすることが果たして本当に正しいのかという疑問がわいてくる。社会情勢の変化に対応をしていかなければいけないのではないか。また、数値についてもこのままで本当に良いのかどうか。１０年という節目だからこそ、もう一度見直さなければいけないのではないか。 （委員）全体的にいえることだが、自治会の加入率にしても、何を基にして指標を設定しているのか、指標の分母がよくわからない。イメージがわくようでわかないので、こういった指標もわかりやすく整理したほうがいい。 （事務局）指標には、国の統計的なデータを反映している部分と、市民満足度調査から出している指標の２種類がある。現在の総合振興計画の策定時に、なかなか事業の成果を反映できる指標をつくれなかったものも中にはあった。次期総合振興計画策定に向けて、庁内でも検討をしていきたい。 ③　自治会について （委員）１０年という年月を考えると、市民活動支援センターができて、市民活動団体の登録数も増えた。しかし、自治会に目を向けると、加入数も減り、衰退している印象がある。自治会の活発化というのはこれからもう少し考えていかなければならないと思う。 （委員）自治基本条例の第１条の基本に戻って、市民主体のまちづくりとは何か。という原点に立ち戻って考えるべき。 （事務局）人が移住を検討するとき、一番重要視しているのが、ここだったら暮らしていけるという地域コミュニティ。コミュニティがあるところには人が集まる。自治体としても自治会は重要で、自治会がなければ市政を進めていくことはできないので、自治会の活発化について検討していきたいと考えている。 ④　市民参加について （委員）日本全体にいえることだが、税収が減って社会保障費が増えてい

	る中、縮充という概念がうまれている。縮充させるためには何が必要かというと、市民の参加。参加をしてくれるためには、楽しくしなければいけない。参加の仕方というのも時代にあったやり方を検討してもらいたい。みなさんの参加でまちづくりができるので、次期総合振興計画では色んな人が気軽に参加できる仕組みを考えてもらいたい。 ⑤　市民満足度調査の結果について （委員）市民満足度調査の結果でもわかるように、よそに移り住みたいと思う理由の１位には交通の便が悪いことがあげられているので、やはり公共交通の整備は必要だと思う。 （委員）市政に関心がない人の一番の理由は、個人の意見が反映されにくいことにある。市民協働という視点がないのではないかという風にとらえられてしまう。市民は風通しの良い行政を求めていると思うので、市民と行政との間に隔たりがないよう、そういったところも検討していかなければいけないのではないか。 （事務局）市として、進めている施策が必ずしも、結果として市民の方のニーズと合わないということもある。できるだけこういったデータを基に行政評価などで改善をしてはいるが、まだ足りない部分があるのかなと思う。施策の重要度に対して、市民の方の満足度が弱い部分というのは、まだまだ市側の取り組みが足りないということ。次期総合振興計画では、もう一度市で行う施策の見直しをしていかなければと思う。 ⑥　観光協会について （委員）市報で観光協会を一般社団法人にするという記事を拝見したが、どういう風になっていくのか。 市内の行事に来る人が少なくなっている。伝統行事というのは必要だと思うのだが、なかなか現状では厳しいのか。 （事務局）現在、熊谷市観光協会は市の組織ではなく、任意の団体ではあるが、ある意味市の直轄組織的な活動となっている。熊谷市としても、人口減少が進むなかで、すぐに人口を増やすのは難しいが、広い意味で観光をとらえ外から人を呼んで、まちなかに人を増やし交流人口の増加を目指していきたい。そうなると、市の組織よりは、観光協会を一般社団法人という形で運営し、フレキシブルに動けるようにしていこうと考えている。 ⑦　蕨駅の事故について（安藤） （委員）先日、蕨駅で視覚障がい者の事故があった。熊谷駅は、新幹線が通っていて人も多い駅なので、事故が無いように白杖を持った人には、ぜひ積極的に声をかけてもらいたい。

	（事務局）熊谷市でも、ホームドアの設置については、ＪＲに要望しているが、すぐには難しい現状がある。熊谷市としては、バリアフリーの計画をもっているので、小中学生に白杖を持った人に対する対応等の授業を行っており、少しずつでも市民一人ひとりがサポートする意識をもてるようにしたい。 **(2)　その他** ①委員の改選について ・自治基本条例の見直しをしていきたいと考えており、みなさんにご審議をいただきたいので、来年度は複数回の開催を考えている。 ・委員のみなさんの任期が１月２９日までとなっているが、また新年度に新しく委嘱をさせていただいて引き続きご審議をお願いしたいと思っているのでよろしくお願いしたい。 （一同了解） ②事務局より連絡事項 **４　閉　会**

※　この会議記録は、熊谷市附属機関の会議の公開に関する要綱第１０条に規定する様式第２号により、作成しています。